(様式1)

自己評価票

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい暮らし」を大切に、持てる力を引き出すことを目指す理念を掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	生活の全てにおいて入居者一人ひとりの持つ力を引き出すことを心がけ、日々理念の実践に取り組んでいる。	○	「その人らしい暮らし」をいかにして実践していくかを常に検討していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム便りや運営推進会議等で理念を明示する機会はあるが、地域での理念の浸透はまだ不十分である。	○	何かの折にさりげなく、理念や地域の中で暮らすことの大切さを表示する工夫をしていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	隣近所の人と挨拶をしたり、一緒に除雪をしたり、畑の作物を頂いたりするほか、地域の小中学校の運動会やお祭りの見学に行っている。が、地域活動への参加や認知症普及活動はしていない。	○	地域のゴミ拾い、道路花壇への花植え等、取り組み始めたばかりなので、入居者、職員共に徐々に地域の人と顔見知りになり良いつきあいができるようにしていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価はケアの質の向上の為に全員で真剣に取り組んでおり、自己評価し、反省し、改善している。	○	自己評価、外部評価の結果を真摯に受け止め、常に反省、改善という前向きな態度で日々働いていきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、気軽に沢山の意見を出してもらい、運営や行事等に活かしている。	○	運営推進会議では、今後も様々な話し合いや報告、相談等、積極的に実施し、また、沢山の勉強を共にしていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は運営推進会議には出席しない意向とのこと。わからないことや相談事等は市担当者に質問し、丁寧に回答していただいている。	○	事業所の実情等、もっと積極的に伝える機会を作っていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護制度の利用を必要とされる入居者はいない。	○	権利擁護に関する勉強会等を開き、職員全員で理解し、いつでも対応できるようにしたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止については勉強会を何度も開いているほか、日常的に身体の確認をする等、防止に努めている。	○	日常的に虐待について話題にするようにし、職員のストレスがたまらないように配慮していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には時間をかけて十分な説明を実施している。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者から自発的に意見や不満、苦情等は出てこないので、日常生活の中でさりげなく聞きだすよう配慮している。	○	小さな不満や苦情等が大きいトラブルにならないよう、日頃から観察を十分にし、入居者の話を良く聞き、不満や苦情を解決していきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話、手紙等で随時家族に報告している。	○	家族との様々な報告は必ず行い、信頼関係が損なわれることのないようにしていきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情箱を設けているほか、面会時や電話等、日頃の関わりの中から苦情を吸い上げていくようにしている。	○	意見や苦情を吸い上げるよう常に配慮したい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議等で運営者を交えて話し合う機会があるほか、年に2回、職員が紙面で意見を述べる機会もある。又、それについて運営者より回答がある。	○	職員の意見を常によく聞き、より良い施設をみなで作り上げていきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急変時等に対応できるよう夜間の待機者を決めてあるほか、休日でも連絡が確実に取れるようにして、可能な限り勤務の調整に努めている。	○	入居者の状況変化にいつでも対応できる体制をとりたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症を考慮して、人事の異動をなるべく最小限にして欲しい旨、運営者にお願いしている。職員の異動時のダメージはあまりないようだが、静かにそっと交代するようにしている。	○	職員が交代したことで入居者が、不安になることがないよう配慮していきたい。
5．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数が少なく外部研修の確保が難しい。認知症の専門誌を購読しているほか、施設内で勉強会を開いている。	○	なるべく外部の勉強会に参加できるよう計画していきたい。又、内部の研修会も様々な分野の講師等を招き、職員全員で勉強していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会を通じ、職員も顔見知りになったり、良い関係が生まれてきている。又、施設見学の機会を持ち、ケアや運営について相互の意見を交換している。	○	入居者同士の交流会だけでなく、職員ももっとお互いに話ができるよう、もっと深く交流できるような機会を作っていきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所内での食事会等のほか、法人内での忘年会等あり、ストレスを発散してもらっている。	○	職員の話を良く聞くよう常に心がけ、不満やストレスがたまらないように配慮したい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議に運営者が参加し職員と話し合う機会があるほか、年に2回、職員が紙面にて意見を述べる機会もある。	○	運営者によく相談にのってもらっているし、職員一人ひとりにもよく声をかけてもらっている。今後も継続していただきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	じっくり時間をかけて本人、家族、又ケアマネジャー等からも話を聞いている。	○	本人、家族等の不安や希望を良く聞き、安心してもらえるように努力する。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネジャー等とよく相談し、そのとき必要な支援が受けられるよう対応している。	○	相談を受けるにあたって、介護保険の知識のみならず、医療その他様々な知識が必要とされるので、常にどのような相談が来ても対応できるように勉強していきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談し、一人ひとりに合わせた対応で施設に慣れてもらっている。又、入居者同士で話ができるよう、職員が間に入って会話をすすめている。	○	本人の不安を言動から察することができるよう、初期の観察を十分にしていく。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から学ぶことは日々沢山あり、料理の下ごしらえや味付け、生活の知恵、そして職員も家庭や子供の話をしては、人生を何より身をもって教えていただいている。	○	常に入居者を敬う気持ちを一人ひとりの職員が大事にしていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談、報告、連絡を密にし、絶えず良好な関係が続くよう努力している。	○	家族から気軽に何でも話していただけるよう、良好な関係を築いていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係とこれからの関係を断ち切らないよう、良好な関係になるよう、本人と家族の気持ちを大事にしている。	○	本人と家族の良好な関係が安心につながるので、配慮していきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や電話、面会、手紙等、可能な限り、よい関係を継続できるよう支援している。	○	常に本人の安心のために関係の継続を大事にしていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が話したり、かかわりあったり出来るよう、職員が間に入りさりげなく支援している。	○	日常的に入居者同士が良好な関係が持てるよう支援していきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居者ともその家族とも現在も遊びに行ったり来たり、花や野菜をいただいたり、デイサービスに通ってきたり、とてもいい関係が続いている。	○	今後もこの関係を続けていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、日々の暮らしの中からさりげなく思いや希望を本人や家族から聞きだすようにしている。	○	認知症の入居者の思いは日々変わるものと受け止め、その時その時の気持ちを大事にしていきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、日々の暮らしの中からさりげなく生活歴や生活環境等を聞きだすようにし、家族からもこれまでの暮らし方を確認している。	○	時間をかけてゆっくりと、信頼関係を損なわないよう把握に努めていきたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員一人ひとりが入居者の暮らしや心身状況の変化を見逃さないよう努めている。	○	観察力を高めるよう職員一人ひとりが意識して取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族から話を良く聞き、職員全員で話し合い作成している。	○	入居者、家族からもさりげなく思いを引き出すようにしていく。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは4ヶ月で実施し、そのほか状況変化がある場合は見直しを随時実施している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録のほかにセンター方式を利用し、介護計画見直し時に情報を活かしている。	○	気づくことの重要性を職員一人ひとりが認識し、日々のケアを大事にしたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所に併設しているデイサービス利用者とレクリエーションをしたり、一緒に外出したりしている。又、本体である特養の夏祭りに参加させてもらったりしている。	○	いろいろな場所や人と交流することが認知症の入居者にとって大変良い場合もあるので、積極的に取り組んでいきたい。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している	無断外出時の救援を地域の警察にお願いしている。また、地域のスーパーへは認知症の施設であるということを説明している。	○	地域との関わりはまだまだ課題が山積みであり、認知症の施設であることを理解してもらうことに努力していきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居申込者や退居者の意向や必要性に応じて、関係機関との連絡をとり支援している。	○	今、必要な支援は何かを見極め、適切なサービスを利用してもらえるようにしていきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談や確認事項等、地域包括支援センターに連絡するほか、センターからの問い合わせ等に対応している。	○	地域包括支援センターとの関わりは非常に少ないので、今後は施設の実情を報告する等、関係を持つようにしたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には夜間、休日でも快く受診を引き受けて下さり、大変助かっている。診察のほかに本人や職員への助言も適切にして下さっている。	○	かかりつけ医との現在の良好な関係が継続できるよう努力していく。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医からも日々、本人、職員に適切な助言をいただいている。又、他科の医師にも入居者が認知症であることを理解していただき、相談して適切な医療が受けられるようにしている。	○	医師との良好な関係が本人の安心、そして家族、職員への安心へとつながるので関係が継続できるよう努力していく。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設しているデイサービスの看護師、本体の特養の看護師等によく相談し、助言をいただいている。	○	いつでも連携が図られるよう、報告、連絡、相談を随時していきたい。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症であることを考慮して、早期退院とその後の対応について医療機関との相談を密にしている。	○	医療機関との連携は、本人、家族、職員にとって最たる安心、安全につながるものなので、関係を大事にしたい。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特用への申し込み等はしているが、施設内での対応については十分な方針を立てていない。	○	重度化や終末期に向けての取り組みをどうするか、じっくり考えていきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と今後どうするか、どうしていきたいか等の話し合いはしているが、施設としての方針を立てていない。	○	重度化や終末期に向けての取り組みをどうするか、じっくり考えていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケアマネジャー等と連絡を十分にとり、スムーズに住み替えができるようにしている。	○	環境が変わることで認知症の状態、心身の状態に変化があるので、住み替え時は関係者と十分な話し合いをしていきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの入居者に対して尊敬の念を持ち、丁寧にやさしくゆっくりとした言葉がけや穏やかな対応をしている。	○	自分の言葉がけが正しいかどうかを常に職員一人ひとりが自覚し、ケアしていきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なかなか自発的には本人の思いや希望が表出してこないので、さりげなく聞きだすようにしている。又、小さい自己決定を沢山してもらっている。	○	入居者の思いや自己決定を大事にする暮らしを心がけていきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天気や入居者の気分によって、その日の過ごし方を柔軟に変えている。	○	どうしても職員のペースになりがちなので、自発的に生活してもらうようにするにはどうしたらいいかを考えていかなければならない。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容･美容の利用についてはその都度本人から希望を聞き、髪形等も本人の希望を確認している。服装も、選べる方には好きな服を選んでもらっている。	○	理容･美容、身だしなみ等、今後も本人の希望と自己決定を大事にしていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外の菜園から野菜を採って来たり、野菜の下ごしらえ、盛り付け、茶碗を洗ったり、お皿を拭いてもらったりしている。	○	出来る範囲で一緒に食事を作るという過程を大事にしていきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的におやつや飲み物は本人の好みの物を選んでもらっている。お酒は行事食等の時に、希望者に飲んでもらっている。	○	医療的な制限から本人の好みのものが食べられない時がある。本人の気持ちを大事に、いろいろ工夫していく。
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつは最後の手段とし、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を実施している。また、おむつをしていてもトイレで排泄することの重要性を認識し、可能な限りトイレで排泄してもらっている。	○	すべての入居者に最期まで尊厳のある暮らしをしていただきたいと心から思う。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の気分によって入浴日を変更したり、対応する職員も変えたりしている。入浴も本人の気持ちを大事に、長く入ったりしてもらっている。	○	現在、入浴の時間帯は大体決まっているが、本人の希望に沿って可能な限り柔軟に対応していきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の電気の明るさ、寝衣、寝る時間等、本人に合わせて支援している。又、夜間眠れないような時には、軽食や温かい飲み物等を提供し、安眠してもらうようにしている。	○	食事と安眠は体調安定の為の基本と考え、一人ひとりの安眠のパターンをよく把握し、生活リズムの作り方や、医療面、精神面等、考慮する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取り、清掃、洗濯物を干す、取り込む、たたむ等、日々の暮らしの中で実施してもらっている。	○	「持てる力を引き出す」理念を大事に、できることは入居者に行なってもらうよう心がける。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や受診時、財布からお金を出して支払う、お釣りをもらう等の支援を実施している。買い物では好きな物を選ぶという過程を大事にしている。	○	社会とのつながりをいつまでも入居者に持ってもらうためにもお金を使うことは忘れないようにしていく。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望があれば可能な限り実施している。	○	筋力低下、認知症悪化防止の為にも今年の目標は「外を歩くこと」なので、積極的に取り組んでいきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の長年の希望だった弘前の花見を今年実施。大変良い笑顔だったので、又実施していきたい。	○	すぐに行けないような所でも、勤務の調整等を行い、本人の希望を大事にし、可能な限り実施していきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を日常的に使っている入居者がいる。	○	面会があまりないような入居者には、こちらから家族に電話をかけ、声を聞かせる等の配慮をしていきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問はいつでもあたたかく受け入れ、本人、家族等皆にお茶を出してもてなしている。	○	訪問者が不快な思いをしないよう配慮する。
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	真摯に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	常に職員一人ひとりが身体拘束は絶対しないことを心がけ、身体拘束についての正しい理解をしていく。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員数の確保が難しい時、鍵をかけてしまう時もある。	○	鍵をかけない工夫をし、入居者に安心して暮らしてもらえるようにする。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在や様子は、昼夜を通して随時確認している。	○	施設内に危険な所がないか、事故等につながる所や破損箇所がないか等、常に点検し、入居者の安全に配慮していく。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物の保管は入居者の目の付かない所とし、薬品や洗剤等は鍵をかけて保管している。希望時はいつでも貸し出している。	○	事故等につながることのないよう、物品の保管・管理を厳重にしたい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりに起こり得るリスクを検討し、申し送り等で常に確認している。	○	一人ひとりの状態をよく知ることを大切にし、事故防止に取り組みたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防火訓練を毎月実施しているほか、救命訓練、行方不明対応、転倒、窒息等についての訓練も実施している。	○	いざという時、職員一人ひとりがあわてず行動できるよう訓練に真剣に取り組んでいきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を毎月実施しているが、認知症のためその時その時によって入居者の行動が違うので課題も多い。	○	地域の方に協力してもらえるよう、働きかけをもっとしていかなければならないと思う。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	医療面や暮らしぶりから考えられるリスクについて家族に説明している。	○	リスクについて家族とよく相談し、入居者にのびのびと暮らしてもらえるようにしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	暮らしぶりをよく観察し、体調変化の早期発見に努め、申し送り等で報告、早期対応、早期治療を実施している。	○	職員一人ひとりの観察力を高めるようにしていきたい。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については職員一人ひとりが入居者一人ひとりの薬をよく理解し、誤薬のないようにしている。	○	日々、緊張感を持ってケアにあたり、事故のないように努めていきたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動する、腹部のマッサージをする、水分を多く摂取する、冷水を飲む、繊維質の食品をとる等、なるべく下剤を飲まないように対応している。	○	排便確認をしっかり行い、便秘対策をとっていく。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりにあわせた口腔ケアを、一人ひとりにあわせたレベルで実施している。	○	口腔内の状態をよく観察し、清潔保持に努め、おいしく食事が摂れるよう支援していきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録をとっており、不足しているときには捕食したり、医師に相談している。	○	食事、水分摂取量の確認をしっかり行い、栄養の確保に努めたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれマニュアルがあり実行している。特にノロウイルスに関しては、毎日清掃、手指消毒等徹底して実行している。	○	日々のケアの中での対応に配慮し、感染予防に努めたい。又、感染症を含め医療の分野は日進月歩なので、常に新しい情報をつかむ努力をしたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のために冷蔵庫内、調理用具等の除菌を定期的に実施している。	○	面会者が持ってきたおやつ等にも配慮し、食中毒予防に努めたい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	色とりどりの季節の花や樹木を植えたり、沢山の野菜を植えたりして、入居者や家族が安らぎ、親しめるようにしている。	○	施設を訪問するすべての方が、安らぎを感じてくれるような建物にしていきたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や自然素材の飾り等をところどころに置き、季節を感じてもらっている。冬季は天窓に日よけ防止に布を下げている。	○	認知症悪化防止の為にも、ふきのとうやススキ、稲穂等を目に見えるように置き、話題となるように配慮していく。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には座布団を用意し、廊下にはソファを置いていつでも好きな所でくつろげるようにしている。	○	建物内外がいつでも居心地のいいものとなるよう配慮していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れたもの、安心できるものを置いている。	○	もっと安心できる居室作りを日々模索していきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症予防の為にも換気はこまめに行なっており、温室度計で確認し、過失にも十分配慮している。	○	1年を通して換気と空調には配慮していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを施設内に設置、施設内はバリアフリーとなっている。	○	日々、身体レベルも認知症レベルも変化するので、その時々に合わせて安全な環境作りに取り組んでいきたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	誤認や錯覚によって不安になることがないよう、のれんを下げたり、居室入り口に名前を貼ったり、トイレに「お便所」という貼り紙をしている。	○	日々、身体レベルも認知症レベルも変化するので、その時々に合わせて、わかる力を活かした環境作りに取り組んでいきたい。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や、野菜、昔懐かしいもの、写真等を建物の中にさりげなく置いて、楽しめるようにしている。	○	建物が入居者の心に安心感を与えるよう、認知症の方にやさしいグループホームを目指していきたい。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年の目標は「外を歩くこと」。年々、入居者が歳をとるのと共に筋力低下が著明になり、認知症も進んでいく。いつまでもその人らしい暮らしをしてもらえるよう、外を歩き、外気に触れ、人にふれあい、筋力向上、認知症の悪化防止、社会性の構築等、できる範囲で取り組んでいこうと思います。